



左/道路からはずれ、けもの道のような小道を入ると現れる山小屋風の建物。昔の水道校舎のような行まいだ。

右/バスルームの窓いっぱい広がる竹林は圧巻！ 休日の昼は、お風呂の霧い合いになりそうだ。

お問い合わせ先  
オシャレモシロフドウサンメディア  
ひつじ不動産 www.hituji.jp  
株式会社大間商品研究所 www.ozekilab.jp



専有面積 12㎡  
資料 62,000～68,000円  
(別途共益費 10,000円)  
建築年月 平成23年11月  
設備 共用部：ラウンジ、TV、キッチン、  
バスルーム1室、シャワールーム1室、  
トイレ3室(ウォシュレット、暖房便座付き)、  
洗濯機2台、乾燥機1台、  
インターネット回線(光ファイバー/無料)、  
ウッドデッキテラス、自転車置き場  
専有部：エアコン、ベッド、机、椅子、洗面台

交通 横浜市営地下鉄ブルーライン「三ツ沢下町」  
駅徒歩7分、各線「横浜」駅徒歩20分  
設計 株式会社大間商品研究所

# 08

神奈川県 横浜市神奈川区三ツ沢東町

## バウハウス横浜

### 竹林のざわめきと大木に囲まれて暮らす、山小屋風シェアハウス

第三京浜道路から続く首都高速神奈川線の最初の出口として知られる三ツ沢。その高台に地元住民から「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれる大きな木がそびえ立っている。この木との出会いから『バウハウス横浜』は生まれた。バウハウスシリーズは、大間商品研究所が開発する古民家シェア物件。現在、南千住、高円寺、広尾を運営し、横浜が4軒目となるが、この場所を偶然知り、惚れ込んだ同社代表の大間耕治さんは、のびのびと枝を伸ばす「なんじゃもんじゃの木」が地元民のシンボルでありながら、

建物を建てるには邪魔になると悩んでいると聞き、ならば木をそのまま取り込んで家を作ってしまうと決心。このシェアハウスを建ててしまった。とはいえ、竹林が生い茂り、車両も入れないこの場所に新築を建てるのは、並々ならぬ苦勞があったそうだ。手作業で基礎を造り、資材を手で運び、1年かけて完成した2棟は、新築なのにどこか懐かしいロッジのような雰囲気。横浜駅からわずか1駅の場所にあるとは思えない圧倒的な自然が満喫できる、なんとも贅沢なシェアハウスだ。



高台の形を生かし、階段状になっているリビングダイニング。

左/巨木の巨根と奥の共用棟の間には「なんじゃもんじゃの木」を挟むウッドデッキがつながっている。

右/薪ストーブの火が赤々と燃えるリビングダイニングは、ウッディな内装、木枠のガラス戸、レトロな柄のタイルが懐かしい雰囲気。